



# Newsletter

日本教育社会学会会報 2024年5月

170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2-401 ガリレオ学会業務情報化センター内

## 目次

会長からのお知らせ	1
第76回年次研究大会スケジュール	1
大会校からのお知らせ	2
研究委員会からのお知らせ	2
課題研究のお知らせ	3
英語特設部会の発表者募集について	4
若手研究者交流会 開催のお知らせ	5
企画部からのお知らせ	5
会計部からのお知らせ	5
広報部からのお知らせ	5
年次研究大会支援部からのお知らせ	5
会員管理部からのお知らせ	6
教育部からのお知らせ	6
編集委員会からのお知らせ	7
国際委員会からのお知らせ	7
大型共同研究プロジェクト参加者募集のお知らせ	7
社会調査協会担当理事からのお知らせ	7
人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS)担当理事からのお知らせ	8
代議員総会の記録	8
理事会及び事務局・委員会会議の記録	10
任意団体の資産の移譲につきまして	14
寄贈図書	14
新入会員／所属変更	15

## 会長からのお知らせ

酒井 朗 (上智大学)

新学期に入り会員の皆さまも、大変お忙しくされていることと思います。

さて、一般社団法人日本教育社会学会では、法人設立の登記を終え、法人格を取得しました。また、これに基づいて、法人口座を開設しました。

会員の皆さまに第一にお伝えしたいのは、これらの作業に時間がかかり、会費納入のための払込用紙の送付が例年より大幅に遅れ、本年2月になったことです。皆さまには

ご心配をおかけして申し訳ございません。なお、このために会費の納入率が例年よりも大幅に低くなっております。まだ会費を納めていらっしゃらない方は、早急に納入をお願いいたします。

その他の会務は順調に進んでおります。大会準備については、大会校の負担軽減を図るために、運營業務の委託を本格的に導入します。また、大会発表に係る資格要件とされている会費納入の締め切り日や、発表要旨の体裁についてそれぞれ見直しを行っています。

各地区での学会活動の活性化については、地区活動検討特別委員会の設置を理事会でご承認いただきました。予算の制限がある中で、そうした取り組みが可能かどうかも含めて検討を進めていただいています。

若手研究者支援についても検討を進めています。具体的な方策が固まりましたらご報告します。また、3月に広島で開催された若手研究者交流会には、たいへん多くの方が参加くださり、誠にありがとうございました。こうした形でより一層若手研究者支援に努めていきたいと思っております。

その他、各部局の活動については、以下の報告をお読みください。近年、ブリテンはかなり分厚くなっていますが、会員の皆様への重要なアナウンスが多く含まれていますので、何卒ご一読ください。

## 第76回年次研究大会スケジュール

第76回年次研究大会は、信州大学長野(教育)キャンパスを会場として実施します。大会日程は以下の通りです。

9月12日(木) 大会前日

13:30 ~ 15:00 編集委員会・研究委員会

15:00 ~ 17:00 理事会

15:00 ~ 17:00 事務局各部・委員会会議

17:00 ~ 18:30 代議員総会

~ 18:30 若手研究者交流会(時間未定)

9月13日(金) 大会1日目

8:45 ~ 9:30 受付

9:30 ~ 12:00 研究発表 I

12:00 ~ 13:15 昼食

12:15 ~ 12:55 事業報告会

- 12:55 ~ 13:15 学会奨励賞授賞式  
 13:15 ~ 14:05 ポスター発表部会  
 [移動]  
 14:20 ~ 16:20 研究発表Ⅱ  
 [移動]  
 16:35 ~ 18:35 研究発表Ⅲ  
 9月14日(土)大会2日目  
 9:00 ~ 9:30 受付  
 9:30 ~ 12:00 研究発表Ⅳ  
 12:00 ~ 13:00 昼食(各種会合)  
 12:05 ~ 12:50 課題研究打ち合わせ  
 13:00 ~ 16:00 課題研究Ⅰ・Ⅱ

## 大会校からのお知らせ

第76回年次研究大会は、信州大学長野(教育)キャンパスにおいて、9月13日(金)、14日(土)に開催します。対面での実施を予定しております。大会に関する情報は、学会ウェブサイトの大会情報やメールにてお知らせいたしますので、こまめにご確認くださいようお願いいたします。

大会に参加するためには、学会ウェブサイト内の「次回大会・参加/発表申し込み」から事前に申し込み、大会参加費をお支払いいただくことが必要です。非会員の方も臨時会員としての申し込みが可能です。期限後の大会参加申し込みも可能ですが、その場合には期限後として設定された参加費となりますので、お気をつけください。

発表申し込みは、大会参加申し込みが完了した会員に限られますので、参加申し込み後に送られるメールに記載されたURLにしたがってSOLTIから行ってください。研究発表を希望する会員は、「一般部会」「英語特設部会」「ポスター発表部会」いずれも、個人発表ならびに共同発表を問わず、指定の期間内にお申し込みください。

大会参加・発表に関する主なスケジュールは以下の通りです。

大会参加申込み	2024年5月7日(火)~8月23日(金) 18時まで
発表申込み	2024年5月7日(火)~5月31日(金) 16時まで
発表要旨原稿提出	2024年7月5日(金)~8月6日(月) 16時まで

大会参加費等の支払いは、8月23日(金)の期限内であれば、クレジットカードによる「オンライン決済」もしくは「銀行振込」のいずれかとなります。なお、期限後の支払いについては「オンライン決済」のみとさせていただきます。期限内でありましても、支払いは極力「オンライン決済」をご利用ください。当日会場でも、オンライン決済によるお支払いのみ受け付け可能です。学会大会当日の大会会場での現金による参加費の受付は行いません。

大会プログラムと発表要旨集録はオンラインのみでの閲覧となります(当日の冊子・USBメモリでの配布はありません)。大会期日に先だて、オンラインにて各研究発

表の発表要旨の閲覧とダウンロードができるようにします。大会校のWi-Fi環境に接続するためのID・パスワードを発行する予定ですが、発表要旨集録については、可能な限り事前にダウンロードして大会会場にいらしてくださるようお願いします。なお、本大会の会場内ではeduroamは使用できません。

本大会では、残念ながら、懇親会は開催いたしません。今回のプログラムの特徴は、初日にいつもより長めに昼食の時間が確保されていること、また、事業報告会や学会奨励賞授与式と同じ会場で、ポスター発表部会に特化した時間が設けられていることです。こうした時間や場所を利用して、会員の皆様の交流を深める機会にご活用いただければ幸いです。また、多くの会員の皆様が参加できるように、9月12日~14日の3日間、大会校内での一時保育(託児)室を設置する予定です。希望される方は、大会参加申し込み時にオプションで「一時保育」の申し込みをしてください。なお、お部屋の関係上10名程度を上限とさせていただきます。お早目の申し込みをお願いいたします。併せてバリアフリー対応も行う予定です。車いす利用など対応が必要な方、あるいは急遽一時保育の必要が生じた場合は、事前に運営事務局(jses76@kohmura.co.jp)までご連絡ください。

昼食については、9月13日・14日ともに、会場キャンパス内の生協食堂を利用できるようお願いしてあります。また、近隣にコンビニエンスストア、徒歩10分程度のところに商店等もございますので、事前の弁当受付は行いません。ただ、会場キャンパス内の生協食堂の利用見込み数を把握するために、参加申し込み時にアンケートを行いますので、ご協力をお願いします。

本大会では、宿泊についてのご案内はいたしません。宿泊場所の確保は、是非お早めをお願いします。本大会の開催に際し、(公財)ながの観光コンベンションビューローより支援を受けておりますので、可能な限り長野市内での宿泊をお願いします。

今回、会場として使用する長野(教育)キャンパスは、教育学部専用のキャンパスで、教室が狭く出入りが難しいなど、なにかとご不便をおかけするのではないかと危惧しております。このように、環境・資源の面からは決して恵まれているとはいえませんが、大会校といたしましては、大会支援部や株式会社コムラ様の助力を得ながら、会員の皆様にとって充実した大会となりますよう尽力していく所存です。多くの会員の皆様と信州大学長野(教育)キャンパスにてお会いできることを心待ちにしております。

(大会校理事:越智康詞)

## 研究委員会からのお知らせ

第76回年次研究大会に関して、前回大会からの変更点を研究委員会に関連する事項を中心にお伝えします。詳細は別途お送りする「大会案内」をご覧ください。

(1) 前回大会と同様に今大会では「一般部会」「英語特

設部会」「ポスター発表部会」「課題研究」を開設します。他方で、「テーマ部会」は公募に対して応募がなかったため開設しません。今大会からポスター発表部会で使用する言語として、日本語のほか英語を用いることができるようになります。課題研究は、教室の収容人数などを考慮し2つ設定しました。その詳細は次項をご覧ください。

(2) 今大会から発表要旨原稿の様式が変更になります。それに伴い所定の様式をダウンロードして記入していただくこととします。

(3) 今大会では、発表者が発表要旨とは別に大会当日に使用する資料をPDF形式に限って、任意で事前にアップロードできるようにします。課題研究を含めすべての部会が対象です。大会参加申し込みを済ませた方は、大会開催期間中に限って、この資料を発表要旨と共にダウンロードできるようにします。

(研究委員長：平沢和司)

## 課題研究のお知らせ

### 課題研究Ⅰ

【テーマ】教員養成における教育社会学の困難を乗り越える

【趣旨】近年、学校は社会の経済格差の問題やジェンダー・マイノリティー・生育歴・障がいなど多角的なアイデンティティが交差する複雑な場として捉えられている。そして教師はこうした社会問題の最前線に立つ存在として、より高度かつ専門的な見識と技量を持つことがますます期待されている状況にある。そのなかで、現代の教育課題および教員養成に対して、教育社会学の知見が重要であることは言うまでもない。

しかし、実際に教員養成で教育社会学をいかに教えるかは、その科目を担当する大学教員・研究者にとって複雑な課題となりつつある。社会階層やアイデンティティといった問題が、教員志望者ひいては社会にとってアクチュアルな問題になればなるほど、その問題はセンシティブなものになりうる。その一方で、均質性の高いローカリティーを経験してきた学生に対しては、社会構造の複雑さの問題性に関心をもたせることがそもそも困難な場合も少なくない。多様な出自の学生が想定される昨今の大学教育の現場において事態はますます複雑になっているといえる。それだけではなく、教員としての「即戦力」が求められることの多い教員養成の場においては、さまざまな批判力を持つ教育社会学の知見が、現場で流通している教育言説に対して緊張関係をもたらすこともある。また、教育社会学が教員養成において「必修」ではない現状や、「教職課程コアカリキュラム」による要請にいかに向き合うべきなのかという制度的な問題も横たわっている。

このような状況を踏まえ、本課題研究では教員養成における教育社会学の位置や意義を捉え、そこで生じている諸課題を再検討する。上記の問題に対して、教育社会学者はどうのような課題や解決策を見出していくことができるのか。本課題研究ではさまざまな立場からの議論を通して、

教育社会学の知見をいかに社会に還元するかというより大きな問題への見通しを得ることをねらいとしたい。

【報告者】(以下、敬称略)

金子真理子(東京学芸大学)

鈴木雅博(明治大学)

太田拓紀(滋賀大学)

【指定討論者】

福島裕敏(弘前大学)

【司会(研究委員)】

川村光(関西国際大学)

粕谷圭佑(奈良教育大学)

### 課題研究Ⅱ

【テーマ】オープンサイエンスと研究倫理をいかに両立させるか

【趣旨】近年の学術研究の動向として、オープンサイエンスの進展と研究倫理の重視がある。オープンサイエンスは、国内では第6期科学技術・イノベーション基本計画を契機として、学術政策の中でより大きな位置を占めるようになってきている。研究倫理にかんしては、各学会における倫理綱領の制定などが2000年代後半から進み、各機関において研究倫理審査が重視されるなど厳格化の傾向にある。

とくに研究データの扱いという点において、これら2つの動向には相反する側面がある。たとえば、オープンサイエンスの方針のもとデータを共有・公開することは、調査対象者・協力者の秘匿性を下げるという倫理面での課題を生じさせる可能性がある一方で、倫理面だけを強調すると研究を制約する可能性もある。ただし、これらは単純に相反するものでもない。むしろ、併せて理解を深めることが適切ではないだろうか。調査対象者の保護の観点がなくは、適切な共有・公開のあり方を議論することはできないはずだし、データ共有が推奨されれば、研究データを適切な範囲で共有することは研究倫理としても要請されるようになるだろう。あるいは、データ共有が進むなかで、さまざまにデータが活用されることに倫理的問題はないのかも課題となりうる。

このような動向を踏まえると、なかでも社会調査を実施する場合には、これまで以上の配慮や、これまででは気にかけていなかった新たな点への注意が求められることが予想される。そのような変化は、調査の企画・実施から調査データの共有・公開に至るまでのプロセス全体に影響を及ぼすだろう。

以上を踏まえて、本課題研究では、まずオープンサイエンスと研究倫理の動向を共有したうえで、実際の質的・量的な社会調査の現場においてどのような課題を現在抱えているのか、あるいは今後生じうるかを提示する。そのうえで、オープンサイエンスと研究倫理の双方の動向に沿った社会調査をはじめとする研究実践が可能か、それをどう実現させることができるかを議論する。

【報告者】(以下、敬称略)

南山泰之(国立情報学研究所、非会員)

田代志門(東北大学、非会員)

都島梨紗(岡山大学)

石田賢示（東京大学）

【指定討論者】

内田良（名古屋大学）

【司会（研究委員）】

胡中孟徳（東京大学）

保田時男（関西大学）

（研究委員長：平沢和司）

## 英語特設部会の発表者募集について

第76回年次研究大会における英語特設部会は、教育社会学における様々な分野での研究蓄積を国際的に発信しようとする意欲ある方々（会員・海外からの招待参加者）の発表を、広く募集します。英語による発表の場として、積極的にご応募ください。

### 【部会の概要】

(1) 部会日時：一般部会と共通

(2) 発表・質疑応答の言語：原則として英語

(3) 発表要旨・資料の言語：英語

(4) 発表要旨・資料の言語：英語（英語特設部会テンプレートに基づいて作成してください）

英語特設部会テンプレートは大会ウェブサイトよりダウンロード

(5) 発表時間：25分（発表20分＋質疑応答5分）

### 【発表申し込みの方法】

一般部会と同様に、大会ウェブサイトからお申し込みください。発表申込、要旨提出の方法、及び期間（期間：5月7日～5月31日16時）は、一般部会と共通です。英語特設部会を第1希望として、第2希望を日本語の一般部会とすることもできます。英語特設部会を申し込む際は、発表者の氏名と所属、発表題目は日英併記としてください。どちらの部会で発表するかは、6月17日以降のできるだけ早い時期にご連絡いたしますので、発表要旨原稿は、該当する部会の言語で作成し、大会ウェブサイトから提出してください（受付期間：7月5日～8月6日16時）。

なお、今大会では、一般部会のポスター部会において、英語でのポスターセッションでの発表を受け付けます。英語でのポスター部会の報告を希望される場合の詳細は5月に出される「第76回年次研究大会のご案内（第一報）」をご覧ください。

### 【お問い合わせ先】

国際委員会 [jses.international.session@gmail.com](mailto:jses.international.session@gmail.com)

international audience.

### 【About the Session】

(1) Date and time: Concurrent with Japanese General Sessions

(2) Language (oral presentation): Mainly in English.

(3) Language (abstract and presentation materials): English (Follow the English Special Session template downloadable from the 76th Annual Meeting website: <https://jses-web.jp/conference/76>)

(4) Length of one presentation: 25 minutes (20 minutes presentation and 5 minutes discussion.)

### 【How to Apply】

As with the General Sessions, please register through the 76th Annual Meeting website (prepared only in Japanese. If you need assistance, please contact the Directorate of International Affairs). The same procedures and deadlines for registration and submission of abstracts as for General Japanese Sessions apply (period: May 7 – May 31, at 4 p.m.). It is now possible to choose one of the General Japanese Sessions as your second choice. However, please note that, in principle, the language of presentation must be English for the English Special Session and Japanese for the General Japanese Sessions. In the application for the English Special Session, the name and affiliation of the presenter and the title of the presentation should be written both in English and Japanese. We will inform you as soon as possible after June 17 whether your presentation will be in the English Special Session or the General Japanese Session, please prepare your abstract in the language of the appropriate section and submit it via the 76th Annual Meeting website. (submission period: July 5 - August 6, at 4 p.m.). If you do not wish to apply for the General Japanese Session, please select [Session Number / Session Name] "30. English Special Session only" for your second choice.

In this year's conference, the Poster session of the General Session will accept posters presented in English. Please read the "76th Annual Meeting Announcement (First Report)" to be issued in May for details if you wish to present a poster session in English.

### 【Contact】

Directorate of International Affairs: [jses.international.session@gmail.com](mailto:jses.international.session@gmail.com)

（国際委員長：相澤真一）

Call for Proposals: JSES English Special Session

The JSES English Special Session will be held during the 76th JSES Annual Meeting. We welcome applicants (JSES members) who are willing to disseminate research findings in various fields of Sociology of Education to the

## 若手研究者交流会開催のお知らせ

9月の年次研究大会での若手研究者交流会について

9月の年次研究大会（@信州大学）時の若手研究者交流会については、例年どおり大会前日（今年度は令和6年9月12日（木））午後から夕方まで開催予定です（懇親会も予定しています）。内容については、5月中に教育部内で検討し6月末前後くらいに理事会承認→広報の開始を予定しております。

（教育部長：村澤昌崇）

## 企画部からのお知らせ

トラベルグラントの試行的導入について

若手会員による日本教育社会学会大会での発表を奨励し、資金的に支援するため、トラベルグラントを試行的に導入します。人数は5名以内とし、助成金額は1人あたり3万円となります。下記をご参照の上、奮ってご応募ください（申請方法については、学会ウェブサイト等によりお知らせします）。

<応募資格>

日本教育社会学会会員（新入会申込中の者も可）のうち、大学院生または博士後期課程入学から10年以内で常勤職にない者（会費の未納がないこと）が、その年度の学会大会で発表する場合に申請できる（口頭発表・ポスター発表とも、共同発表における登壇者や発表者以外の者も申請できる）。ただし、本トラベルグラントを2回授与された者は、以後は申請できない。

<選考方法>

定員以内であれば全員に授与する。定員を超える場合は学会賞選考委員会が選考する。選考にあたっては、以下の条件をこの順で適用する：「過去に本トラベルグラントを受けていない者」「申請時点で他の旅費助成を受けていない者」「発表の登壇者および発表者」「自宅から開催地までの距離が遠い者」「トラベルグラントを必要とする理由」

<結果の通知と授与の方法>

結果は個別に通知され、学会のホームページにも掲載される。助成金は大会後に指定の銀行口座へ振り込まれる。

<報告義務>

学会発表終了後1か月以内に報告書（600字程度）を作成して、学会事務局に提出する（後日、ホームページで公開）。

（企画部長：荒牧草平）

## 会計部からのお知らせ

会費の納入について

2023年度会費（2023年8月1日から2024年7月31日まで）の納入がまだお済みでない方は、至急納入をお願いいたします。今年度は法人口座開設の関係で振込用紙をお届けするのが2月中旬となったため、会費納入の遅れが懸念されております。会員の皆様におかれましては、ご理解とご協力を賜われれば幸いです。

一般会員（11,000円）、院生会員（7,000円）、留学生会員（5,500円）の区分となります。お届けしている振込用紙には、会員区分に応じた金額が印刷されております。振込用紙がお手元ない場合は、下記の郵便振込口座にお手続きください。

また、学会ウェブサイトには設置されている「年会費オンライン決済」（英語サイトでは「Annual Membership Fees Online Payment System」）のボタンから、オンラインシステムを用いてクレジットカードによる支払い手続きを行うこともできます。ご都合のよい方法をお選びください。

会費の納入状況は、学会ウェブサイトの「会員情報システム」にログインした後、「年度別に会費を照会する」から確認することができます。

<会費振込先>

郵便振込口座 00160-3-515784

口座名義人（加入者名）一般社団法人 日本教育社会学会（他金融機関からの振込の場合は、ゆうちょ銀行〇一九店（ゼロイチキユウ店）当座0515784）

（会計部長：小川和孝）

## 広報部からのお知らせ

『教育社会学研究』のJ-STAGEへの登録・公開状況について

4月1日に、第110集に掲載された論文及び書評が登録・公開されました。ぜひ御活用ください。

（広報部長：立石慎治）

## 年次研究大会支援部からのお知らせ

日本教育社会学会の年次研究大会は、これまで大会校により実行委員会が組織され、準備・運営されてきました。しかし、大会の準備・運営は、ほぼ1年間にわたる大変な業務であり、今後、本学会が持続的・安定的に年次研究大会を開催していくためには大会校の準備・運営の負担を軽減することが必要となっています。そこで、前期及び今期の理事会での審議により、大会運営の一部を業者委託することとなり、第76回年次研究大会は株式会社コムラに業務委託しています。大会の実施には、大会実行委員

会（委員長：大会校理事）が責任を負うこと及び大会参加・発表申込等にガリレオ社のSOLTIを利用することは変わりませんが、大会運営について、コムラ社を運営事務局（jses76@kohmura.co.jp）として進めていきます。なお、年次大会に関する情報は学会ウェブサイトの「大会情報」からご確認ください。

（年次研究大会支援部長：白川優治）

## 会員管理部からのお知らせ

### 1. 異動等にもなう会員情報の確認・更新について

会員情報は個人情報に類するものですので、変更はご本人の申告によることを原則としております。年度の変わり目には会員情報をご確認いただき、必要に応じて速やかな変更をいただけますよう、ご協力をお願いいたします。

現在、会費は下記の正会員区分によって定められております。

一般会員	11,000円
院生会員	7,000円
留学生会員	5,500円

会員区分は「会員情報管理システム（SOLTI）」に登録されている情報に従って設定されますので、就職、異動、所属変更など、会員情報に変更があった方は、学会ウェブサイトからSOLTIにアクセスして会員情報の更新をお願いいたします。更新が遅れますと、誤った請求による会費の不正納入等が生じることがございますので、ご注意ください。

### 2. 会費納入時期と学会機関誌投稿資格・年次研究大会発表申込資格との関係について

法人化後の本学会運営内規に基づき、会費納入時期と学会機関誌投稿資格要件（ただし2024年11月10日締切の投稿から）、および年次研究大会発表申込資格要件が変更されます。学会機関誌投稿については、各投稿締切日までの会費納入（新規入会の場合は入会申込の手続も含む）、年次研究大会発表申込については、発表申込締切日までの会費納入（新規入会の場合は入会申込の手続も含む）がそれぞれ必要となります。ただし、会費を「銀行振込」にてお支払いされる場合は、入金反映までに時間がかかるため、各締切日の1週間前が納入期限となりますことにご注意ください。

新規入会の方は、学会ウェブサイトの「別表 新規入会申込時期と学会機関誌投稿資格および年次研究大会発表申込資格の関係」をあわせてご確認ください。

### 3. 学会の入会年度の取り扱いについて

法人化に伴い、年次研究大会の開催日を基準とした「学会年度」から「8月1日～翌年の7月31日」を区切りとする「事業年度」に学会運営の時期区分が変わりました。これに伴い、学会の入会年度については、2024年7月31日までに入会手続を行い、会費を納入した場合、2023事業年

度入会とし、2024年8月1日以降に入会手続を行い、会費を納入した場合、2024事業年度の入会として扱うこととなっております。新入会員をご紹介いただく場合、入会を希望される方へ、このことを周知のほど、よろしくお願いいたします。

### 4. 自然災害等による被災者減免措置について

日本教育社会学会では、自然災害等による被災者減免措置を行っております。学会事務局までご相談ください。

（会員管理部長：小野奈生子）

## 教育部からのお知らせ

### 若手研究者交流会開催報告

令和6年3月10日12:30から、広島オフィスセンター第1会議室にて若手研究者交流会を開催しました。開催形式は対面とオンラインを個別に用意し、対面27名（うち1名は直前でキャンセル）、オンライン11名（うち1名は直前でキャンセル）が登壇しました。内訳は会員21名、非会員17名／学部生（2名）、大学院修士（13名）、大学院博士（16名）、PD（1名）、博士研究員（0名）、大学教員（非常勤）（0名）、大学教員（助手・助教・専任講師）（4名）、その他（2名）でした。一般の参加者は対面1名、オンライン14名（うち1名は直前でキャンセル）でした。

交流会当日は、対面会場では一つの部屋の中に7つの島（6名が着席可能）を作ってラウンドテーブル（RT）を7つ同時に進行させました。各RTでは登壇者が順番に司会を行う方式を採用し、対面参加の部員が適宜机間巡回をしました。会場確保の都合上狭い空間の中での対面会場の運営であり、RT間の距離が近く発表や議論の声が相互に被って聞こえにくくなるのではないかと懸念されましたが、それも杞憂であったようでRT内での参加者相互の距離が近く、常に議論が絶えることなく親密な交流が展開されているように映りました。司会を登壇者間で持ち回りとしたことも功を奏した感がありました。

会を16時に終了後、同一会場内で希望者による懇親会（1人千円徴収／付近のコンビニからの酒食の買い出し・会場に持ち込み）を行い、引き続き多くの登壇者・参加者が残って参加し、メインの会合以上に交流が促進されたように思われました。

他方、オンライン会場は、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使い、RTを3つ同時進行させました。オンライン専任対応の部員と対面参加の部員が適宜各RTを巡回し、部会での発表・議論の状況をモニタリングしました。対面に比べると議論が不活性に終わる事が懸念されましたが、それも杞憂であり活発な意見交換が成されていたように思われました。

16時にオンライン本会合終了後、Zoomを閉じずに「オンライン飲み会(?)」に移行（18:30まで会場）したところ、RT8とRT10の参加者の多くは引き続き活発な意見交換を行っていました。ただしRT9は教育部からの連絡

不行き届き等により16時終了後全員Zoomを退出してしまっただ点は今後の課題です。

なお、本会合には酒井朗学会長も東京から日帰りで参加され、対面・オンライン双方の各RTを丁寧且つ精力的に巡回され意見交換をされていました。また対面限定ではありますが、懇親会時には会長自ら大枚を抛出いただき、会の盛り上げに大いに貢献いただいたことも付記しておきたいと存じます。

事後に登壇者・参加者を対象としたアンケートには20名の方々から回答が寄せられ、概ね高い評価をいただいたとともに、様々なご提案もいただきました。寄せられたご意見等は、信州大学での大会時に予定している会合運営の参考にさせていただきたいと存じております。

●対面参加運営体制：木村祐子（副部長 東京成徳大学）/野田文香（副部長 大学改革支援・学位授与機構）/末次有加（部員 大阪総合保育大学）/中尾 走（部員 広島市立大学）/樊 怡舟（部員 広島大学）…（以上教育部）/松宮慎治（信州大学）/康 凱翔（広島大学大学院）…（以上当日支援員）

●オンライン参加運営体制：林川友貴（部員 東京大学大学院）…（以上教育部）

●統括：村澤昌崇（部長 広島大学）/●特別参加：酒井朗（学会長）

（教育部長：村澤昌崇）

## 編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、現在114集の編集作業を進めています。特集は、前期編集委員会の企画によるテーマ、「学問の自由・大学の自治」です。学術会議会員の政府による任命拒否を契機として、学問の自由・大学の自治が俄に社会問題化されましたが、日本の大学はすでに今日に至るまでの大衆化過程と諸改革を通じてその姿を大きく変容させられており、くだんの件をきっかけに改めて教育社会学的視点から大学を省察しあるべき姿を論じることには、大きな意義があると言えるでしょう。

114集の投稿論文につきましては、投稿44本、受理40本、掲載予定は6本となっています。今回、二度の再査読を経て採択可となった論文もありました。査読にあられる編集委員ならびに外部査読者の先生方には大きなご苦勞をおかけしますが、アドバイスによって見違えるように論文の質が向上するのは編集委員会にとっても冥利に尽きるものです。投稿者におかれましては、どうかあきらめず粘り強く取り組んで下さい。なお今回、文字数の超過によって不受理となった論文が比較的目立ったほか、字数は超過していないものの書式が投稿規定を踏まえていないものも散見されました。投稿規定に明確な文字数・頁数基準がありますので、投稿時には十分ご注意ください。

また、東洋館出版との間で契約の一部見直しを行い、定価決定の方法を一部改訂することといたしました。この件は2024年3月30日開催の理事会において承認されました。

（編集委員長：倉石一郎）

## 国際委員会からのお知らせ

先日は、会員への一斉メールを通じた台湾教育社会学会からの招聘につきまして、ご応募くださり、誠にありがとうございました。応募と選考の結果、2名の会員を選出し、国際委員会委員長とともに、5月17日、18日に行われる台湾教育社会学会での報告を予定しております。

第76回年次研究大会では、英語特設部会の開催を予定しているだけでなく、一般部会での英語でのポスター報告の開催も予定しております。どうぞ奮ってご応募ください。

（国際委員長：相澤真一）

## 大型共同研究プロジェクト参加者募集のお知らせ

大型プロジェクト特別委員会では、前期のワーキンググループで検討されてきたプロジェクトを具体化する作業に取り組んできました。このたび、計画中の2つのプロジェクトのうちの一つである「人口減少社会における教育課題」で、本学会会員の皆様に向けて参加者の募集をすることになりました。質的研究が中心のプロジェクトです。今回は手探りで試行的にスタートしますので、ご希望に沿えないことも多々あるかと思いますが、このプリテンが刊行される頃にはすでに説明会を実施し、募集も始まっている頃かと思えます。ご関心がある会員の皆様には、以下の本学会ホームページに掲載の情報や募集要項をご覧のうえ応募をご検討ください。よろしくお願いたします。

プロジェクト情報掲載ページ：

<https://jses-web.jp/news20240420-1>

（SOLTI内により詳細な情報を掲示しています。<https://servic.gakkai.ne.jp/society-member/mypage/Educational>）

（大型プロジェクト特別委員長：中村高康）

## 社会調査協会担当理事からのお知らせ

一般社団法人社会調査協会の2023年度下半期の活動および動向について、その概略を報告します。

(1) 社会調査協会の2023年度シンポジウムは、2023年12月9日（土）13：30～16：30に、ハイブリッド開催されました。テーマは「質的研究の職人芸的手法とテキスト化の困難と可能性」、パネリストは三井さよ氏（法政大学）、石岡丈昇氏（日本大学）、小田博志氏（北海道大学）、司会は金菱清氏（関西学院大学）でした。

(2) 社会調査協会の表彰事業として、優秀研究活動賞が土屋敦氏（関西大学社会学部教授）に、『社会と調査』賞が伊藤理史氏（京都産業大学現代社会学准教授）、渡辺健

太郎氏（立教大学社会情報教育研究センター助教）に決まり、授賞式が2023年12月9日に連絡責任者会議・会員集会において執り行われました。

(3) 2023年度の社会調査士・専門社会調査士科目に関する科目認定の結果が、2024年3月に発表されました。203大学276機関、69大学院84機関から、社会調査士科目2,944科目、専門社会調査士科目304科目の申請がありました。

認定科目数は、社会調査士科目が2,942科目、専門社会調査士科目が302科目でした。

(4) 機関誌『社会と調査』No.32が本年3月に発行されました。今号の特集は「社会と心の測定」です。同誌は社会調査協会会員に配布されています。

(社会調査協会担当理事：吉川 徹)

## 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 (GEAHSS) 担当理事からのお知らせ

### 1. 公開シンポジウム開催のご報告

GEAHSSでは2024年2月18日(日)13:00～16:30に、【なぜ日本のジェンダー指数は低いのか】+「若手」・女性のためのテーマ別ディスカッション」と題する公開シンポジウムをオンラインで開催しました。

第一部では、経済学（和田一哉、日本経済学会、金沢大学）、法学（三成美保、ジェンダー法学会、追手門学院大学）、政治学（三浦まり、日本政治学会、上智大学）、教育学（小玉亮子、日本教育学会・日本教育社会学会、お茶の水女子大学）の4分野から、日本のジェンダー状況とジェンダー指数そのものを検討する報告がなされました。

第二部では、6つのRoomに分かれてテーマ別ディスカッションが行われました。各Roomのテーマは以下です。Room1:「若手」をはじめとする研究補助業務職にまつわる問題、Room2:「社会人」院生／研究者にまつわる問題、Room3: 学生やPDの研究と子育ての両立にまつわる問題、Room4: 若手が（学協会などの）組織の管理運営業務に関わっていくためには一若手による発信の場を整える足掛かり、Room5: ハラスメントを考える場を学協会がどうつくるか—ハラスメント防止への取り組みや相談の場についての情報共有の機会、Room6: 若手研究者はどう活動しているのか—若手のネットワーキング。

第一部・第二部ともに多数の参加者を得て盛況となりました。日本教育社会学会の会員の方々も登壇者や参加者として積極的に関わってくださっていますので、来年の公開シンポジウムにもぜひご参加いただけますようお願いいたします。

### 2. 運営委員会のご報告

2024年3月27日(水)14:00～15:00に、第7期運営委員会第1回（通算第13回）がオンラインで開催されました。今期の幹事学会は日本文化人類学会、副幹事学会は日本認知・行動療法学会が担当しています。主な議題は、調査WGを安定的に運営するために調査委員会として位置づ

けなおすこと、昨秋に実施された第2回人文社会学系研究者の男女共同参画実態調査の中間報告、ハラスメントWGの立ち上げなどです。

第2回人文社会学系研究者の男女共同参画実態調査の集計結果は、最終チェックの段階にあり、近日中にGEAHSSホームページに掲載され、政策提言などに活用されるということです。調査にご回答くださった会員のみなさまにお礼申し上げます。

(人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会担当理事：本田由紀)

## 代議員総会の記録

2023学会年度臨時代議員総会（2024年1月28日オンライン開催）

出席代議員49名中39名出席

### I. 議長選出・議事録署名人の指名

議長として、渡辺雅子会員が選出された。議事録署名人として、加野会員と朴澤会員の両名が指名された。

### II. 会長挨拶

酒井会長より、開会の挨拶がなされた。

### III. 臨時代議員総会の成立確認

過半数を超える参加があったため、臨時代議会成立が確認された。

### IV. 議題

[報告事項] (抜粋)

#### 1. 事務局長報告

山田事務局長より、下記の点について報告がなされた。

- 1) 法人登記について
- 2) 法人口座の開設状況
- 3) 各種規程・細則の見直しと集約
- 4) 学会ウェブサイトの更新について

#### 2. 特別委員会の設置について

酒井会長より、特別委員会の設置について報告がなされた。

#### 3. 第76回年次研究大会（於 信州大学）について

- 1) 業務委託について  
次期大会実行委員会委員の白川理事より2024年以降の大会運営に関する報告がなされた。
- 2) 総会にかかわる事業報告会の開催形式について  
山田事務局長より、総会にかかわる事業報告会の開催形式に関する報告がなされた。  
相澤理事より、意見交換ができる場にしていく重要性に関する発言がなされた。

#### 4. 大会校理事報告

次回学会大会校理事の越智会員より、大会開催用意に関する進捗状況の報告がなされた。

#### 5. 各部・各委員会報告

企画部（荒牧理事）より、企画部の今後の課題および

方針と進捗状況について報告がなされた。

会計部（小川理事）より、会計部の活動予定と活動方針について報告がなされた。

広報部（立石理事）より、ニュースレター第179号の発行ならびに学会ウェブサイトの修正更新について報告がなされた。また、今後の活動予定についての方針が示された。

年次研究大会支援部（白川理事）より、下記項目に関する報告がなされた。

- 1) 年次研究大会の準備・運営の適切な支援
- 2) 年次研究大会の業務委託に関する、コームラ社との各種調整に関する報告がなされた。

大会実行委員会（白川理事）より、下記項目に関する報告がなされた。

- 1) 次回大会について
- 2) 大会運営準備の体制
- 3) 準備・運営について

会員管理部（小野理事）より、下記の点について報告がなされた。

1. 入退会、会員異動に関する業務
2. 法人化に伴う入会手続細則の作成（ウェブサイト上の「入会案内」の修正）
3. 選挙管理委員会の業務補助
4. 会員構成と動向についてのデータ整理（年齢や身別の会員構成と近年の推移の把握）

教育部（村澤理事）より、今後の活動方針として、若手研究者支援の充実ならびに広報部・地区活動検討特別委員会との連携について報告がなされた。また、今後の若手研究者交流会の開催予定が提示された。

ダイバーシティ推進部（内田理事）より、学会大会での発表・参加におけるアクセシビリティ向上の検討にあたって、他学会の活動状況に関する報告があり、特に日本特殊教育学会における取り組みが参考となることが説明された。仁平会員より、日本社会学会および日本特殊教育学会における大会報告要旨の書式の要点に対する補足説明が行われた。

編集委員会（仁平副委員長）より、『教育社会学研究』査読報告書の書式変更に関する報告があり、査読コメントの返送方式の説明について説明がなされた。これに対して代議員より「条件付き採択」および「再査読」となった場合の査読コメント、および「不採択」となった場合の査読コメントについての質問があり、仁平副委員長より、カバーレターを作成の上、返却を行う旨の返答があった。続けて代議員より投稿者からの意見表明の場を用意する予定について質問があり、仁平副委員長より、

委員会で今後検討する旨が返答された。山田事務局長より、東洋館出版との紀要刊行に関する契約条件に関する交渉状況が報告された。相澤会員より、教育社会学研究の投稿原稿の書式テンプレートに関する提案があった。

研究委員会（平沢委員長）より、下記項目に関する報告があった。

1. 第2回研究委員会について
  - 1) 2023年度学会年度からの会計処理の変更点
  - 2) 地区活動検討特別委員会設置について
  - 3) 大会運営の業務委託について
2. 研究発表の申し込み・発表要旨の見直しについて
3. 大会時の部会名としての「外国の教育」の廃止について
4. 2024年大会の課題研究について
5. 次回委員会について

国際委員会（相澤委員長）より、下記項目に関する報告がなされた。

1. 2023学会年度の活動予定や活動方針
  - 1) 海外の学会との関係継続ならびに今後のあり方に関する精査
  - 2) 9月の年次大会における英語部会の開催
  - 3) 会員の国際化を支援するラウンドテーブルあるいはワークショップのオンライン開催
2. 本学会と関係のある海外の学会からの動き
3. 2024年9月開催の年次大会における英語部会の設置
4. 国際委員会が主催となるラウンドテーブルあるいはワークショップの開催

学会賞選考委員会（岩井委員長）より今期の活動ならびに活動予定として、2023年度日本教育社会学会第11回奨励賞（論文の部）が募集中である旨が説明された。

倫理委員会（吉田委員長）より、今期の活動ならびに活動予定として、下記の項目が報告された。

1. 倫理委員会への会員からの相談への対応
2. 倫理委員会への相談窓口の連絡先の学会webサイトへの掲載
3. 日本教育社会学会研究倫理宣言、倫理規程、倫理ガイドライン、倫理委員会規程、相談窓口の連絡先のweb上での統合
4. 前期倫理委員会による会員アンケートの取りまとめ・報告
5. 必要に応じた倫理委員会規程、倫理規程、倫理ガイドラインの見直し
6. 必要に応じた会員への啓発活動

大型プロジェクト特別委員会（中村委員長）より、報告事項として、二つの大型プロジェクトの実施状況について説明がなされ、以下の二つのプロジェクトに関する進捗状況が報告された

- 1) オンライン調査を活用した義務教育9年間における教育格差の追跡調査研究（川口プロジェクト）（主担当：川口俊明）
  - 2) 人口減少地域（社会）における教育課題（主担当：尾川満宏）
- これらについて、1)の企画方針の修正、ならびに2)の順調な実施が、それぞれ報告された。

地区活動検討特別委員会（広田委員長）より、委員会の活動状況の報告ならびに委員の追加が報告された（同委員会は本学会会則第10条の2に基づき、2023年11月19日開催の2023学会年度第2回理事会で設置、2024年1月28日開催の2023学会年度第3回理事会決議で委員1名が追加され、同理事会後に開催された臨時代議員総会でこれまでの経過が報告された）。

地区活動検討特別委員会の構成員は下記の通りである

委員長	広田照幸（日本大学）
副委員長	大多和直樹（お茶の水女子大学）
委員	木村涼子（大阪大学）
委員	河野銀子（九州大学）
委員	島 一則（東北大学）
委員	山田浩之（広島大学）
委員	山田真紀（椋山女学院大学）

#### [決議事項]（抜粋）

1. 法人化顧問から「会則改正」の提案  
山田事務局長より、「入会金及び会費の承認の件」を会則に加えることが提案され、過半数の賛同により承認された。

（上記記録では資料配付時の一部誤記を修正いたしました）  
（誤）事務報告会 （正）事業報告会  
（事務局長：山田哲也）

## 理事会及び事務局・委員会会議の記録

理事会及び事務局・委員会会議の記録（抜粋）

2023学会年度第2回理事会（2023年11月19日：Zoomによるオンライン会議）

議長：酒井 朗

### I. 議長挨拶

酒井議長より、理事会構成員に挨拶があった。その後、下記の点が述べられた。

1. 法人化手続きの完了が報告された。
2. 『ブリテン』第179号の発行が報告された。
3. 若手研究者支援を学会として推進していくことが述べられた。

### II. 定足数確認

議長は、本日の理事会が定款に定める定足数を満たしていることを確認し、開会を宣し、議事に入った。

### III. 事務局長報告

山田事務局長より、メーリングリストの運用について報告がなされた。今回の理事会開催時点で、前学会年度の理事会員もメーリングリストの配信対象に含まれていたが、会の終了後に現理事会員のみを配信対象とすることが報告された。

### IV. 議題

[決議事項]（抜粋）

#### 1. 前回理事会議事録確認（資料1）

議長より、前回の第一回理事会議事録の内容に異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 2. ダイバーシティ推進部部長、国際委員会委員の追加承認について（資料2）

山田事務局長より、ダイバーシティ推進部部長（1名）および国際委員会委員（2名）の追加に関する提案があり、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 3. 地区活動検討特別委員会設置の承認について（資料3）

事務局長より、各地区での活動の活性化を狙いとした地区活動検討特別委員会（委員長、副委員長、委員4名より構成）の設置承認について提案がなされた。

議長より、特別予算を委員会の運営予算として用いることが提案された。これらの提案に対して、いくつかの質疑応答がなされたうえで、議長より、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 4. 運営内規の改訂について（資料4～5）

山田事務局長より、運営内規の改訂の提案があり、その背景及び要点について説明がなされた。議長より、補足として、年次研究大会の報告に際しての会費納入期限の変更が今後の検討課題として説明された。議長より、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 5. 入会申込者の承認について（会員管理部）（資料6）

小野理事より、入会申込者について提案があった。議長より、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 6. 3月の若手研究者交流会の開催について（教育部）（資料7）

村澤理事より、3月の若手研究者交流会および広島大学高等教育研究開発センターによる後援について提案があった。部会運営の経費が計上されていないことに伴い、発表内容のセンター刊行物への掲載ならびに原稿料の支払いでもって登壇者への支援を行うことが提案された。質疑応答がなされたうえで、議長より、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 7. その他

・大会運営の業務委託について（年次大会支援部）（資料8 [参考資料1]）

白川理事より、学会大会運営の業務委託および株式会社コムラとの間での予算見積を踏まえて、次回学会大会運営の体制整備を進める旨の提案があった。見積の内訳や追加費用発生の可能性等について理事より質問があり、それぞれの応答を経たうえで議長より、

意義がないことを確認のうえ、承認された。

#### 〔報告事項〕(抜粋)

1. 次期大会開催校あいさつ(大会校理事)
 

越智理事より、次回大会の候補日として9/13(金)、9/14(土)が提示され、長野(教育)キャンパスを会場として調整を進めていることが報告された。
2. 法人口座の準備状況について(会計部)(資料9)
 

小川理事より、法人化に伴うみずほ銀行及びゆうちょ銀行への口座移行について、その準備状況の説明があった。また、2023学会年度の会費請求および振込用紙の発送は12月以降となることが説明された。
3. 今後の収支の見通しについて(会計部)(資料9〔別紙資料1~2〕)
 

小川理事より、今後の収支の見通しについて説明があった。
4. 会計処理(旅費・アルバイト料の申請)について(会計部)(資料9〔別紙資料3~7〕)
 

小川理事より、会計処理について説明があり、昨年度からの変更点および注意点が周知された。
5. ガリレオからの10・11月分事務委託費請求について(会計部)資料9〔別紙資料8~9〕
 

小川理事より、ガリレオ社からの10・11月分事務委託費請求について説明があった。
6. 会員管理報告(会員管理部)(資料6)
 

小野理事より、会員管理報告について説明があった。
7. 学会ウェブサイトのリニューアルについて提案(法人化推進顧問)(資料10)
  - (1)法人の主要な規定
  - (2)法人が公開する文書
  - (3)会員が閲覧できる文書
  - (4)歴史的な文書となるものの扱い

塚原顧問より、学会ウェブサイトのリニューアルに関する上記4点について変更の提案が示された。酒井会長より、(3)については会員からの開示請求が生じた際に公開する形とすること、また(4)についてはいずれの資料を歴史的な文書として扱うのか検討の機会を設けることが確認された。
8. 第1回研究委員会報告など(研究委員会)(資料11)
 

平沢理事より、第1回研究委員会についての報告があり、2024年大会におけるテーマ部会の実施および2024年大会の課題研究の設置次第が検討中であることがそれぞれ説明された。
9. 第1回国際委員会報告など(国際委員会)(資料12)
 

徳永委員より、第1回国際委員会についての報告があり、台湾との交流事業に関して今後の中長期的な交流のあり方を検討中であること、学会内外での連携で会員の国際化へのニーズに対応することを検討中である旨が説明された。
10. 任意団体の財産整理の現状(前会計部)(資料13)
 

小川理事より、任意団体の財産整理について、11月15日時点での状況が報告された。
11. その他

- ・大会運営の準備等について(年次大会支援部)(資料14〔参考資料2〕)
  - (1)大会運営の体制整備についての提案
  - (2)大会運営に関する各部・委員会への検討

白川理事より、上記2点について報告があった。
- ・『教育社会学研究』第114集編集状況について(編集委員会)
 

倉石理事より『教育社会学研究』第114集の編集状況について報告があった。

2023学会年度第2回事務局・委員会会議(2023年11月19日:Zoomによるオンライン会議。理事会終了後に開催)

#### I. 事務局長報告

山田事務局長から開会が宣言された。特段の報告事項はない旨が共有された。

#### II. 議題

〔決議事項〕(抜粋)

##### 1. 前回事務局・委員会会議議事録確認(資料1)

前回第1回事務局・委員会会議の議事録の内容に関する確認がなされ、賛成多数で承認された。

〔報告事項〕(抜粋)

##### 1. 広報部報告(資料2)

広報部の小原副部長から、教育社会学研究のJ-STAGEにおける書評原稿の英語タイトルに関する確認がなされた。また、ホームページやSNSを利用した学会活動の学会外への広報の必要性が共有された。加えて、所管のイベント等に関するウェブサイト上での記事掲載について、積極的な運営を図っていく必要性が共有され、ブリテンに関する編集についての報告がなされた。

2023学会年度第3回理事会(2024年1月28日:Zoomによるオンライン会議)

議長:酒井 朗

#### I. 会長挨拶

酒井会長より、理事会構成員に挨拶があった。

#### II. 定足数確認

議長の酒井会長により、本日の理事会への出席理事数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。

#### III. 事務局長報告

山田事務局長から、特段の報告がない旨が伝達された。

#### IV. 議題

〔決議事項〕(抜粋)

##### 1. 前回理事会議事録確認について(資料1)

前回の第二回理事会議事録の内容に異議がないことを確認のうえ、承認された。

##### 2. 地区活動検討特別委員会委員の追加承認について(資料2)

山田事務局長より、地理的なバランスの観点から、地区活動検討特別委員会に委員を追加する旨の

提案がなされ、異議がないことを確認のうえ、承認された。

3. 法人化顧問から「会則改正」の提案について（資料3）  
山田事務局長より、入会金及び会費に関する条文を会則に追加することの提案がなされ、異議がないことを確認のうえ、承認された。
4. 日本教育社会学会入会手続細則について（会員管理部）について（資料4）  
会員管理部の小野理事より、入会手続細則に関する提案がなされ、異議がないことを確認のうえ、承認された。
5. 入会申込者の承認について（会員管理部）について（資料5）  
会員管理部の小野理事より、新規の入会申込者の提案がなされ、異議がないことを確認のうえ、承認された。

#### 〔報告事項〕（抜粋）

1. 会員管理報告（会員管理部）について（資料5）  
会員管理部の小野理事より、報告事項として、該当期間に退会報告者が存在しなかった旨、並びに現会員数の報告がなされた。
2. 各部・各委員会報告について（資料6）
  - 企画部  
企画部より、企画部の活動予定および方針に関する資料提示がなされた。若手研究者支援として、学会大会時における旅費支援などのトラベルグラントの実施に関する検討を進める旨が共有された。
  - 会計部  
会計部の小川理事より、任意団体の口座の移行に関して、法人口座の開設が完了したことが報告された。また、ガリレオの個人情報管理費に関して、退会した会員としての非アクティブ会員の取り扱いの方針について検討を進める必要性が報告された。そして、ガリレオとの協議により、決算報告については、四半期ではなく半期ごとの決算報告とする旨が共有された。最後に、交通費等の精算申請に関する適正な申請の周知のお願いに関する報告があった。
  - 広報部  
広報部から資料提示があった。学会サイトにおいて、非会員向けにも情報を提供し記事を編集することをお願いしている旨が、酒井会長から報告された。
  - 年次研究大会支援部  
年次研究大会支援部の白川理事から、大会準備の経過についての報告があった。大会準備に関しては、越智大会校理事より、9月13日・14日に、信州大学の長野キャンパスで次期大会が開催されること、次期大会において懇親会は開催しないことが共有された。その後、白川理事から、大会運営準備に関するコームラへの業務委託の導入について報告があった。大会運営の業務委託はコーム

ラが実施し、会計出納については、システム管理を行うガリレオが担当する旨が共有された。

- 会員管理部  
会員管理部より、資料提示がなされた
- 教育部  
教育部より、資料提示がなされた。
- ダイバーシティ推進部  
ダイバーシティ推進部の内田理事より、各学会のアクセシビリティ、ダイバーシティへの対応に関して整理した資料の報告がなされた。本学会として、一律的に障害に対応するためのサービスを設けることは難しいが、個人対応の窓口を設けることは本学会でも迅速に対応可能である旨が示された。加えて、ユニバーサルデザインの利用推奨に関しても提案がなされるとともに、全会員の学会発表へのアクセシビリティを高める方法について共有がなされた。
- 編集委員会  
編集委員会の仁平副委員長より、2023年11月10日投稿締切の第114集は39本の査読中であること、114集より試行的に査読報告書の書式を一部変更した旨、並びに投稿者に対する査読結果通知の仕方を改めた旨の報告があった。
- 研究委員会  
平沢理事より、次回大会についての報告があった。
- 国際委員会  
相澤理事より、今後の国際委員会の活動についての報告があった。
- 倫理委員会  
酒井会長より、資料の通り報告があった
- 大型プロジェクト特別委員会  
中村委員長より、大型プロジェクトの進捗についての報告があった。  
酒井会長から、今後は中村委員長の提示した方向性で問題ないなかの確認の発言があり、反対意見はなかった。
- 教育部  
村澤理事より、教育部の活動についての報告があった。  
また、教育部からの提案ではなく、広島大学高等教育研究開発センターを文部科学省の「共同利用・共同研究拠点」新設認定の公募申請に際して教育社会学会からの推薦をもらいたい旨の発言が村澤理事よりあり、過半数の賛成を得て承認された。

2023学会年度第4回理事会（2023年3月30日：Zoomによるオンライン会議）

議長：酒井 朗

#### I. 議長挨拶

酒井議長より、理事会構成員に挨拶があった。その

後、下記の点が述べられた。

## II. 定足数確認

議長により、本日の理事会への出席理事数が定款に定める定足数を満たしていることが確認された。

## III. 事務局長報告

山田事務局長から、特段の報告がない旨が伝達された。

## IV. 議題

[決議事項] (抜粋)

### 1. 前回理事会議事録確認 (資料1)

山田事務局長より、前回議事録について確認してもらい、異議があれば申し出をしてもらう旨が共有された。

### 2. 入会申込者の承認について (資料2)

会員管理部の小野理事より、入会申込者と退会報告者について説明があり、異議がないことを確認のうえ、承認された。

### 3. 会費納入時期と学会機関誌投稿資格・年次研究大会発表資格との関係について (資料3)

会員管理部の小野理事より、会費納入時期と学会機関誌投稿資格・年次研究大会発表資格との関係について説明があり、異議がないことを確認のうえ、承認された。

### 4. ニュースレター vol.180の構成案について (資料4・広報部別紙資料1)

広報部の立石理事より、ニュースレター vol.180の構成案について説明がなされ、異議がないことを確認のうえ、承認された。

### 5. 東洋館出版との契約の一部見直しについて (資料5)

編集委員会の倉石理事より、『教育社会学研究』に関する東洋館出版社との契約の一部見直しについて説明がなされ、同社から最低保証販売価格の適用が提案された旨について情報共有がなされた。そのうえで、東洋館出版社との契約の一部見直しについて、異議がないことを確認のうえ、承認された。

### 6. その他

企画部より提案がなされた日本教育社会学会トラベルグラント試行案について、異議がないことを確認のうえ、承認された。

[報告事項] (抜粋)

### 1. 日本教育社会学会第75回大会決算報告 (資料6)

福島前大会校理事より、大会決算の収入・支出に関して報告がなされた。

### 2. 会計部報告 (資料7)

○任意団体の決算・監査について (会計部別紙資料1～3)

会計部の小川理事より、任意団体の決算・収入・支出、並びに法人口座への資産移行について共有がなされた。また、井上監査より、任意団体の監査の報告について説明がなされ、決算書が正確に記載されている旨が報告された。

○任意団体の仮払金の清算について (会計部別紙資料7)

○法人口座の設立状況について

○法人契約について

会計部の小川理事より、法人口座の設立状況について共有がなされた。また、法人契約について、四半期決算を半期決算に変更することによる経費への影響について報告がなされた。

○2023学会年度第1半期の収支状況について (会計部別紙資料4)

会計部の小川理事より、第1半期の収支状況について報告がなされた。

○ガリレオからの2～3月分事務委託費請求について (会計部別紙資料5～6)

会計部の小川理事より、ガリレオからの2～3月分事務委託費請求について報告がなされた。

### 3. 会員管理部報告

○会員管理報告 (資料2)

○会員構成と動向についてのデータ整理進捗状況について (資料3)

会員管理部の小野理事より、入会申込者と退会報告者等について説明があった。

### 4. 広報部報告 (資料4) (広報部別紙資料2)

広報部の立石理事より、教育社会学研究第110集のJ-STAGEでの公開等について報告があった。

### 5. 企画部報告 (資料8)

企画部の荒牧理事より、日本教育社会学会トラベルグラント案について説明がなされた (説明後に理事会で提案が決議された)

### 6. 年次大会支援部報告

○大会実行委員会・大会準備関係のMLについて (資料9)

○「大会案内(案)」について (年次大会支援部別紙資料1)

○大会時の広告依頼業者について (年次大会支援部別紙資料2)

年次大会支援部の白川理事より、上記資料について報告があった。

### 7. 教育部報告

若手研究者交流会報告 (資料10)

教育部の村澤理事より、若手研究者交流会の実施内容、当日の様子、登壇者・参加者対象のアンケート調査について報告がなされた。また、9月の大会時に若手研究者交流会を実施予定である旨の説明がなされた。

### 8. 編集委員会報告 (資料5)

倉石理事より、114集編集状況について報告がなされた。

### 9. 研究委員会報告 (資料11) (研究委員会別紙資料1)

平沢理事より、第3回研究委員会と課題研究、大会案内について報告があった。

### 10. 国際委員会報告 (資料12) (国際委員会別紙資料1～3)

徳永副委員長より、資料に基づき下記の事項について説明があった。

○台湾教育社会学会からの招聘について

○2024年9月開催の年次大会における英語部会の設置ならびにポスターセッションにおける英語での

## 案内について

- 国際委員会が主催となるラウンドテーブルあるいはワークショップの開催について
- その他（法人理事会前に研究委員会委員長と打ち合わせておく必要について）

## 11. 学会賞選考委員会報告

岩井理事より、学会賞の選考に関して報告がなされた。

## 12. 大型プロジェクト特別委員会報告

中村理事より、大型プロジェクトに関して報告がなされた。

## 13. 教育関連学会連絡協議会担当理事報告（資料13）

酒井議長より、教育関連学会連絡協議会担当理事についての報告がなされた。

## 14. GEAHSS担当理事報告（資料14～15）

GEAHSS担当本田理事より、下記の事項についてGEAHSS 公開シンポジウムについて報告がなされた。

- GEAHSS 公開シンポジウム
- ギース第7期運営委員会第1回議事次第

## 15. 法人化顧問から議事録についてメモ（資料16）

山田事務局長より、塚田法人化顧問から提出された法人化後の議事録の取り扱いに関するメモについて説明がなされた。

## 16. その他

酒井議長より、事務局各部・委員会における細則制定の検討依頼がなされた

（事務局長：山田哲也）

## 任意団体の資産の移譲につきまして

去る3月30日の理事会におきまして、任意団体の最終決算が承認されました。決算資料はホームページの会員向け資料にアップロードいたしました。任意団体の総資産36,140,831円（一般会計19,513,278円・特別会計16,627,553円）は全て一般社団法人日本教育社会学会に移譲され、法人会計部で入金を確認したことをご報告申し上げます。

（現会計部長：小川和孝）

（任意団体前会計部長・清算人：相澤真一）

## 寄贈図書

## 寄贈図書

著者	書名	出版社	寄贈者	刊行月
中村高康、中村知世、小黒恵 編著	高校生の進路・生活と「教育的カテゴリー」 ゆらぐ高校教育をとらえなおす	ミネルヴァ 書房	出版社	2023年9月30日
吉村さやか 著	髪をもたない女性たちの生活世界 その「生きづらさ」と「対処戦略」	生活書院	出版社	2023年9月16日
荒川英央 著	明治中期の民放教育・民法学習	信山社出版	出版社	2023年9月30日
仲野由佳理 著	教育のく自由と強制	ちとせプレス	出版社	2023年11月17日
小宮山博仁 著	文化資本とリベラルアーツ 人生を豊かにする教養力	明石書店	出版社	2023年8月28日
三好登 著	大学教育と学生の学習行動・学習習慣 -コロナ禍での経験を含めて-	広島大学出版会	出版社	2023年11月10日
中西啓喜 著	教育政策をめぐるエビデンス 学力格差・学級規模・教師多忙とデータサイエンス	勁草書房	出版社	2023年11月27日
中島恒雄 著	最新でできなかった子(生徒)をできる子(学生)にするのが教育	ミネルヴァ 書房	出版社	2023年12月4日
中島恒雄 著	新・二十一世紀の大学教育改革 創立者が語る東京福祉大学・大学院の挑戦	ミネルヴァ 書房	出版社	2023年12月4日
苅谷剛彦、濱名陽子、木村涼子、酒井 朗	新・教育の社会学 <常識>の問い方、見直し方	有斐閣	出版社	2023年12月20日
今津孝次郎 著	「学校いじめ」のメカニズムと危機管理 「いじめ防止対策推進法」の光と影	黎明書房	出版社	2024年1月12日
高嶋 航、佐々木浩雄 編著	満州スポーツ史 帝国日本と東アジアスポーツ交流圏の形成	青弓社	出版社	2024年1月23日
探究学習研究会 編著	「探求学習」とはいうけれど	晃洋書房	出版社	2024年1月20日
中世古貴彦 著	アメリカ高等教育のガバナンス改革 カリフォルニア大学の自律と統制をめぐる葛藤	九州大学出版会	出版社	2024年2月11日
石田浩、石田賢示 編著	格差社会のセカンドチャンスを探して 東大社研パネル調査にみる人生挽回の可能性	勁草書房	出版社	2024年2月26日
高橋靖幸 著	児童虐待の歴史社会学 戦前期「児童虐待防止法」成立過程にみる子ども親の変遷	勁草書房	出版社	2024年2月26日

---

**新入会員／所属変更**

---

学会への連絡、および各種手続きに関しては以下までお願いいたします。

●学会事務局

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2-39-2-401  
ガリレオ学会業務情報化センター内  
一般社団法人日本教育社会学会

E-mail : g003jses-mng@ml.gakkai.ne.jp

●ブリテン編集部

立石慎治 (広報部長)  
〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2  
筑波大学

E-mail : tateishi.shinji.gw@u.tsukuba.ac.jp

●ウェブサイト

URL : <https://jses-web.jp/>

**一般社団法人 日本教育社会学会 No.180**

2024年5月10日発行

発行 一般社団法人日本教育社会学会

会長 酒井 朗

編集 一般社団法人日本教育社会学会事務局広報部

印刷 タマタイプ

〒208-0002 武蔵村山市神明2-78-1

Tel : 042-562-0965 Fax : 042-566-1084